

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	学校法人郡山私幼協学園 みらいサポート		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 20日		～ 令和8年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 16名
○従業員評価実施期間	令和8年 1月 13日		～ 令和8年 1月 31日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	幼稚園の敷地内に事業所があるため、療育の個別や小集団での姿と幼稚園の大きな集団での姿を把握することができ、療育と教育の連携を深めることができる。	・幼稚園と連携を図り、集団の中での本人の困り事や課題等を療育で個別に取り組んでいる。 ・本人の得意なこと、好きな遊びを十分に楽しみ満足する中で、少しずつ苦手なことにもチャレンジしようとする気持ちを引き出している。	・研修や勉強会等に参加し専門性を高め、支援の質の向上に繋げている。 ・支援終了後の打ち合わせで、その日の課題や改善点等を話し合い、次回の療育の計画を練っている。
2	職員全員が幼稚園教諭と保育士の資格を取得していて、保育経験も豊富である。そのため、子どもの育ちをしっかりと捉えることができる。	・肯定的な言葉かけや絵表示等を活用し、一人ひとりの課題となる部分を把握しながら育ちに繋げる自立課題や活動等を行っている。 ・年齢や育ちを考えた運動メニューや小集団活動を取り入れている。	幼稚園の担任と支援方法や支援内容を共有し、連携を深めるようにしている。
3	法人内に新たな児童発達支援事業所を開設した。(日和田事業所) 併用いただくことで、環境の違いでの本人の姿を知ることができる。	・活動や遊びの取り組み等共有し、継続して行えるよう連携を図っている。 ・共通のツールを活用し、互いの事業所の療育記録等、情報共有ができるようにしている。	両事業所の職員が集まり、具体的な支援方法等を話し合う機会を設けている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	併用している児童発達支援事業所や保育園等との情報共有や連携が少なかったこと。	併用している事業所の児発管の方と話す日時の調整が難しい。	・保護者の方の同意を得て、事業所間連携や関係機関との連携を積極的に行いたい。 ・電話での話し合いも行っていく。
2			
3			